

所見（治療前の画像所見など）や肉眼所見を参考にしなければならない。

癌細胞が生存し得ないとみなされる高度の変性ならびに壊死を効果判定の基準とする。癌細胞の核の膨化，濃縮，崩壊，消失など，細胞質の空胞化，好酸化，細胞膜の破綻など，また腺管状，乳頭状，あるいは胞巣状構造の破綻などは治療効果に含める。

壊死巣あるいは肉芽腫様病変にしばしばみられる泡沫状の組織球は，かつてそこに癌組織が存在していたことを示す重要な所見である。

- ② 原発病巣には手術ならびに剖検材料が含まれる。
 - ③ 治療効果判定のために完全に摘出された転移病巣については，原発病巣と同様の判定を行うこととする。不完全な切除材料や部分的生検材料では効果判定は行わず，個々の材料についての組織学的所見を記載するにとどめる。
-